

# 朋友

For You

新春号

沖縄セントラル病院広報誌

2009年1月1日発行 Vol.6



医療法人 寿仁会 沖縄セントラル病院

〒902-0076 沖縄県那覇市与儀1-26-6 TEL.098-854-5511 FAX.098-854-5519

URL <http://w1.nirai.ne.jp/o-centh1/> E-mail [o-centh1@nirai.ne.jp](mailto:o-centh1@nirai.ne.jp)

# Contents

2009(平成21年度)年頭所感 職場への帰属意識と連帯感 ～ 今一度基本に立ち返ろう ～ (理事長・病院長 大仲 良一).....	1
病院再生と新規事業 (事務長/新垣 安雄).....	6
病院の活性化は医局から (副院長/堀川 恭偉).....	7
沖縄セントラル病院に赴任して ～ 将来展望 ～ (内科医師/石田 眞一)....	7
病を背負い、地味でも着実な一歩を ～患者・職員と共に～ (看護部長/喜久川 美佐代)	8
職員・家族の幸せを目指して (総務部長/宮城 孝光).....	9
永年勤続医療従事者表彰をいただいて (リハビリテーション科 渡久地 ルイス)	10
永年勤続二十年の表彰を受けて (デイサービス/浦本 謙次郎).....	11
アルバム .....	12～16
病院の基本理念 .....	17



2009(平成21)年 1月5日 新春年始式(於:多目的ホール)

## 2009(平成21年度) 年頭所感

### 職場への帰属意識と連帯感

～ 今一度基本に立ち返ろう ～

理事長・病院長 大仲 良一

職員の皆様、明けましておめでとうございます。昨年は未曾有の世界不況の中で、我が国は食糧偽装の問題に端を発し、国家の中枢機関、官公庁による不祥事、無差別殺人事件など、余りにも暗いニュースの多い一年でした。その中であって我が国の歴史に輝かしく残る四人ものノーベル賞受賞者が出たことは、暗い世相に大きな光と希望をもたらしました。

そのような喜びも、辛く悲しいことが多かった一年間の冬のトンネルを抜けて、ここに春一番、大きな希望と闘志を抱く新年を迎えました。心より職員とご家族の上に幸多かれと祈っております。

扨て、我が国の新しい医療情報統計によりますと、2008年3月31日現在、全国の病院数は8,832施設(一般病院等7,755施設・精神科病院1,077施設)となっています。

過去において最も多かった1990年から18年間で、1,264施設(12.5%)の病院が消滅しています。精神病院は殆ど減少していないため、その大多数は一般病院が減少していることとなります。

消滅した施設は、その多くが50床未満の小規模私的病院でありました。



昨年度から本格化している医療制度改革法の施行により、今後も相当数の病院が淘汰されると予測されているが、そのターゲットは200床未満の中小病院が中心になるといわれています。

2011年末の介護療養病床の廃止に向けて病院の淘汰は更にセカンド・ステージに突入すると考えられます。

医療制度改革が医療現場不在で厳しく議論され、診療報酬が先行的に大幅に引き下げられる一方において、医師・看護師等の医療従事者が様々な理由によって不足する状態となり、各医療機関とも必然的に人件費等の増加による経営難に追い込まれているのが現状であります。

少子高齢社会、地域間格差等の社会的現実における問題を背景にして、我が国の医療制度の現実には実に由々しい事態に突入していると言えます。医療最前線の現場を担っている人材の不足は様々な局面で医療崩壊の大きな要因となる可能性を秘めていると言っても決して過言ではないでしょう。

既に医療現場から、更に国民患者からも悲痛な叫びが上がり、確実に我が国の医療・福祉は疲弊し、崩壊の道を着々と辿っています。

これは明らかに予見性のなかった政治の

貧困、就中厚生行政の怠慢によるもの以外の何ものでもないと考えます。

多くの医療機関が涙ぐましい努力を重ね、医師をはじめコ・メディカルスタッフが職務に対する責任感に溢れ、真摯に医療・保健・福祉等に取り組んでいる矢先に国政を代表する立場にある一国の総理が「社会的常識が医師にはかなり欠落している人が多い・・・」等という物議をかもしような問題発言をするに至っては全く言語道断で義憤をこえ、誠にもって嘆かわしい一言につきるものであります。

ここで当院の今後の方針を述べるに当たって、昨年度の第5次医療法改訂の骨子を振り返ってみると、従来(第1～4次)の改訂とは異なり、我々医療機関は重大な自らの意志決定や決断、対応に迫られました。即ちその内容は次の通りであります。

- ①医療計画制度の見直し等を通じた医療機能の分化、連携の推進
- ②地域や診療科による医師不足問題への対応
- ③医療安全の確保
- ④医療従事者の資質の向上
- ⑤医療法人制度の改革
- ⑥患者等への医療に関する情報提供の推進等であります。

医療法の改訂に当たっては、医療法という政策が先あって、それに併せて経済的裏付けを行うべきであろうが、第5次改訂をみると随所に政策誘導の感をぬぐえません。

その極端な例が療養病床削減に向けた謂わば「兵糧攻め」であります。

療養病床の点数配分による患者分類を導入し、医療必要度の高い患者には評価を上げ、一方低い患者には極端に下げられました。患者の

状態に基づく評価は当然納得いくものであります。問題はその点数配分であり、当然医療区分1では経営は難しいため、療養病床は医療依存度の高い患者をより多く入院させるか介護老人保健施設、若しくは老人ホーム等へ病院そのものを転換せざるを得ない選択を迫られた訳であります。

つまり、医療の必要度の高い患者は医療療養病床や一般病床へ、その必要度が低く、介護度の必要性が高い患者は介護老人保健施設等又は高齢者賃貸住宅や自宅への道を選択せざるを得ない仕組みになっている訳であります。

斯様に患者の医療に関する医師の裁量権を全く無視した制度がのさばり歩いており、愈々我が国の医療・福祉の将来は暗雲が立ち込め後顧の憂いぬぐえないものがあります。

ともあれ、当院が将来生き抜いていく方策を具現化しなければなりません。今年度の基本的な目標は次の項目を達成することです。

#### 1) 介護療養病棟を回復期リハビリ病棟への転換

医療情報提供制度や新医療計画案は地域住民への情報を提供することによって、患者が医療機関を選び易いようにすることであろうが、その意図するところは、患者、住民に医療機関を選別させて、医療機関の淘汰を促そうとする計画だと思うのは、穿った考え方であろうか。

すべて国の思惑通りに医療計画が推進され、療養病床の再編が終了した暁には、次に来る医療計画が始まる2013年度には、愈々厚労省の関心は医療費削減の本丸である一般病床の再編に取り掛かる可能性が十分に予測されます。

具体的には、急性期病院、後方支援病院、医療療養病院及び各種介護福祉施設等との地域

における位置づけと慢性期疾患の急性化時の対応の問題がクローズアップされてくるであろう。

更にガン、循環器、代謝疾患等の診療分野に当院が如何様に参画できるか、新たな差別化として十分に、尚且つ積極的に検討する必要があると考えています。すべてが待ったなしの一刻の猶予も許されない時勢であります。

昨年度は病棟(2F)を一般病棟へ転換し、現在円滑に運用されているが、本年度は可及的早期に3F介護療養病棟を回復期リハビリ病棟への転換を計画しています。

前述したように介護療養病床の削減が進み、更に一般病床の削減計画が実施されれば、この分野からの回復期リハ病床への移行が当然予測され、専門家の試算によると現在の介護病床から6万床(現在4万床稼働中)更に一般病棟からの移行が3~4万床予測され、回復期病棟の需要が総計9万~10万あるといわれています。

従って、当院も選択肢の一つとして、厳しい幾つかのハードルはありますが、敢えて回復期リハビリ病棟の開設に向けてチャレンジしていく計画であります。

## 2) 予防医学・健診部門との連携によるメディカル・フィットネスセンター「フローゲン」の活性化

フローゲン(不老源)を開設して、5年があつという間に過ぎてしまいました。他医療機関に先駆けてTHP業務をはじめ、一般健診・人間ドック・特殊身体検査・脳ドック等を推進してきましたが、この間健診結果で再検及び精査を要するケースでも受診率が30%以下で予防医学の成果があがってないのが実情であります。

且つての成人病が生活習慣病と認識されるようになり、近年メタボが俄かに脚光を浴びるよ

うになりました。

健康管理センターや外来でメタボの方々に執拗に栄養管理と運動の必要性を解いても、中々成果をあげることができないことは残念至極であります。

このため、メタボ対策の一環として、医師による管理のもとで、理に叶った運動・栄養指導を目的として開設したのが、このフィットネスセンター「フローゲン」であります。先ず会員数1000人を目標にスタートしたのでありますが、その数値には程遠く、経営面では厳しい現実であります。しかし、当院で付設しているメディカルフィットネスは単に会員獲得より、サービス向上を優先し、一人でも二人でもメタボを克服し、心身共に健全なる身体をつくり上げることが予防医学を推進する当院の理念にも叶うもので、厳しい経営環境の中にあっても強いて苦言を呈することなく、金城センター長はじめ担当職員の奮闘に期待を寄せている次第であります。

急がば廻れ、単に会員数という“量”のみを追うのではなく、利用者の満足度という“質”を計る指標を重視しながら、結果としての会員増を期待しているものであります。

「フローゲン」は特定健診制度が制定される以前に開設されたものでありますが、当然健診受診者の受け皿機能を十分に果たすものであり、他方児童生徒の所謂メタボ予備軍対策にも積極的にその役割を果たさねばなりません。

医療機関だからこそ、その特性を活かして健診機器によるデータの蓄積ができ、医師の診察の上で、健康運動指導士や栄養士が会員の体調をしっかりと把握し、密なコミュニケーションを通して個別トレーニングを実施することが出来るのであります。

具体的には当院の健康管理センターで概ね4

ヶ月毎に健診を受けていただき、その結果をもとに、栄養指導、有酸素運動、筋力トレーニングをはじめ、ヨガや諸々のエクササイズを組み合わせた運動療法を行うものであります。

医学的管理のもとに行う運動療法であり、一定期間継続しないとその効果が得られず、その良さも伝わり難いものであります。

まずは健康管理センターや外来で運動を必要とするメタボ体型の方々を会員として誘導し、口コミによって会員増を図るのが自然な流れであろう。

そのためには健診センターや外来でフィットネス担当者による相談コーナーを設置することも一案であろう。

かつて折込みチラシや新聞広告、無料体験を実施して地域への宣伝を計ってきたが、費用の割には効果を挙げることはできませんでした。

会員の満足度向上は相手を良く理解することから始まる。会員情報の共有化のためにもカルテの記載は大切であり、定期的に担当医のチェックは欠かせないものであります。

メタボ等の改善度を定期的に検討し、必要に応じて栄養士による詳細な指導に加えて運動メニューの変更も検討する必要があります。

会員からの口コミが最も大切であり、そのためには「フローゲン」の質の向上と全職員の協力のもとに、健康管理センター及び外来経由の会員増対策が急がれるのであります。

**3)介護度の低い高齢者を受け入れるための賃貸住宅の新設(診療所、訪問看護ステーション、デイサービス等の機能を付設し、職員宿舎並びに保育施設も併設)**

介護療養病床の廃止については縷々と述べ

てきたところであるが、医療機関から締め出される患者の受け入れ先である老健等の介護福祉施設は、本県においてはほぼ飽和状態となっており、所謂医療、福祉難民が多く予測されます。

当法人寿仁会では、斯様に行き場に窮する高齢者のための受け入れ施設の建設を企画し、現在基本設計を進め、2010年春を目途に竣工の予定であります。

概ね100床規模で診療所をはじめ訪問介護、デイサービス等を併設し、高齢者の生活の安寧を重視した理想郷構想を進めております。

尚、看護師宿舎並びに保育施設の併設も並行して建設する計画も進めております。

**4)病院の理念と目標を全職員に周知徹底し、コミュニケーションの充実と人間愛の涵養を計る**

10年一昔という言葉がありますが、現代は5年否3年が一昔で、刻一刻と激しく変化している時代で、個人の生活においても病院、企業経営面でも決して安閑としてはおれない時代であります。

ダーウィンはその進化論の中で「生き残るのは強いものや賢いものではなく、唯一変化に柔軟に対応できる者だ」と記述しています。まさにその通りで、現状分析と卓越した先見性とそれを如何に着実に実践できるかにかかっています。どのように環境が厳しくても、経営者には経営を維持し、発展させていく責務があります。

これからの病院経営に向けて、医療、介護の面でどのような分野で競争力があり、何を主軸において経営を進めていくか、短期的な損得ではなく、その先を見据えた確たる方策と完璧な実践が必要であります。

ここで最も重要なことは経営トップが決断し

た内容を組織全体に浸透させた後、どのようにすれば実現可能か、実現するためには何が必要か、組織全体で考え実行することが肝要であり、つまり経営トップ層と各部署の管理者を中心に現場スタッフが一体となって果敢に実行する以外に隘路はありません。そのためには中間管理職の責任は極めて重大であります。

更に当院は中規模病院ながらも、個性を出して地域から求められる存在になるためには、すべての医師がリーダーシップを発揮して職員の先頭に立ってチーム医療の構築に努める必要があります。

「ノーブレス・オブリージ(noblesse・oblige)という言葉があります。

社会的地位の高い者こそ、社会に奉仕貢献しなければならない責務があるという意味です。医師同志、職員や患者とのコミュニケーションを常に意識し、自らそのきっかけをつくる努力をして戴きたい。

従来から医師はプライドが高く、統率しづらい人種であるといわれ、他の職員には病院の方針に従わせているのに、医師の領域だけは例外で聖域だというのは可笑しいということが、近年巷でチラホラと囁かれる時世になりました。

医師にとって重要なのは、技術のみならず、同僚やコ・メディカルスタッフとも蜜に連携して、患者の立場に立って相手の気持ちを十分察知してあげられる人間としての大きな器であることです。

全職員が集う職務会や各種委員会等に医師の姿が少ないことに兼ねてから疑問をいっている次第です。

チーム医療のトップを担う医師から変革することが重要であります。

それによって職員の士気も挙がるし、患者や

地域にもその変化は必ず伝わるものです。

患者を助けたいという心情は突き詰めれば人間愛であり、そこから生まれる優しさであります。愛のないところに良好な人間関係はなく、人間の命を預かる職業であるならば医師やコ・メディカルスタッフが共通に持つべき感性がここになくってはなりません。

お互いが医療人として歩み始めた原点に立ち返り、尚且つ強い帰属意識で結ばれた仲間として、切磋琢磨することによってこそ、明るい展望が開けてくるものです。

当院が生き残る鍵は将にここにあると言っても決して過言ではありません。

#### 5)他医療機関との差別化を更に強化する

紙面の都合上詳細については割愛するが、従来から推進してきた他医療機関との差別化を更に強化する計画であります。その内容を列記すると以下の通りであります。

- ① ガンマ・ナイフ、チャンバー、予防医学(健診)の更なる強化
- ② ISO認証への再チャレンジ
- ③ 病院評価機構の内容充実補完
- ④ 機能的脳外科(パーキンソン病等)の再構築
- ⑤ 認知症医療のスタート
- ⑥ 創立37周年記念事業
- ⑦ 他医療機関、施設との連携広報活動の強化
- ⑧ 医療安全管理、災害対策の強化
- ⑨ 地域訪問医療の強化
- ⑩ AMDA活動

以上の各計画については各委員会等で詳細に検討する。

本年度の諸々の計画が円滑に、尚且つ完全に達成することを願いつつ、新年の抱負とします。

## 病院再生と新規事業

事務長 新垣 安雄



社会保障費の圧縮に起因する2011年度末(3年後)までに廃止される介護療養型病床の廃止、医療療養病床の大幅削減と再編の政策誘導。県も療養病床を有する医療機関に対し、個別的面談による削減計画の実態調査を行っています。

療養病床再編後の見通しも定かにされないなかで、県内各療養病床病院は削減計画政策の実効性を疑心的捉え方で、様子見の現状の様です。

さて、3年後の療養病床22万床削減計画により、病院崩壊が何やら現実味を帯びてきそうな中(今の政治情勢下何が起っても不思議ではありませんが)、最早安閑としてはられないのが、医療機関の置かれた状況です。救急病院が大幅減収、病院崩壊に拍車、選定療養導入による国民皆保険制度崩壊の危険…云々等の医療系の紙面が賑わう異様な様相において、医療費削減への政策誘導に抗うための生き残りを真摯に考え、有効な生き残りの為の再生手段を考えて行かねば、削減の災禍に飲み込まれて行くことになりかねません。

その為にも診療報酬の仕組みを咀嚼し、如何に最大収益に直結した医療サービスを取り入れ、それを提供していけるかが今後の再生を図る上での一つのカギとなるのではないのでしょうか。

又、医療制度改革によってもたらされた、副産物としての新規事業への医療機関の参入が開かれたことにより、経営体力の許せる範囲でこれら長寿社会に必要なとされる新しいビジネスチャンスへの参入の好機と見極め、積極的に事業展開を図る必要もあります。現在、寿仁会の法人事業として、それに向けての計画も進捗中ですが、具現化した暁には、地域貢献に大きく寄与することになるろうかと、思案を膨らませております。

平成21年1月吉日





## 病院の活性化は医局から

副院長 堀川 恭偉



私は脳外科の仕事を30年近く実践してきて今、内科の世界に入っている。多くの患者に手術をおこない、術後の経過を外来で、ともに見ていく中でいわゆる生活習慣病の重要性をつくづく感じてきた。脳梗塞、脳出血、などの脳卒中を再発しないように血压管理を行い、糖尿病、脂質異常を合併していることが多いことから食事面や、運動面での指導も行わざるを得なかった。病院で面談している患者の背後には、一人暮らしで食事も不規則で外食が多く栄養指導など全くと言っていいほどできていない方もいた。また、老夫婦の二人暮らしでほとんどを家の中で暮らすことが多く、散歩などの運動もままならない方もいた。どうも、病院で患者を指導するだけでは解決できない事柄が山積しているように見えた。患者の住んでいる家庭や職場や地域に入って行き、生活スタイルを変えていかなければ再発予防や、そもそも病気にならないための予防はできないのではないだろうか。沖縄セントラル病院が、地域に貢献し、地域から信頼されるために、私たちはもっともっと地域の中に入って患者の生活スタイルを、間近に見ながら共に手を携えて協力していく必要がある。最初の取り組みは、訪問診療である。加藤先生、瀬尾先生を中心に、選任看護師としての平良看護師と新城看護師は、活動の基礎を固めている。すぐにでも飛び出していけるように準備に余念がない。もう一方では、国際交流委員会を中心に地域の医療啓蒙、医療支援を開始したところである。医局は、自らの専門性を発揮しつつその先頭に立って、地域医療を展開する時期にきている。

平成21年1月吉日

## 沖縄セントラル病院に赴任して ～将来展望～

内科医師 石田 眞一



私の出身は秋田市で、昨年、沖縄市出身の妻と結婚しました。沖縄の生活は大変暮らし易いと思っております。秋田大学医学部附属病院では第一内科の肝炎グループでしたが、肝炎ウイルスの実験設備がないため、ウイルスの事を勉強するために、主に子供の下痢症のウイルスであるロタウイルスの仕事をしました。この間、医者としても働いており、糖尿病を専門としている朝日生命糖尿病研究所丸の内病院で医師ならびに研究員として1年間勤務しました。ここでは糖尿病の臨床と同時に、分子生物学の基本的な実験も学ぶことができました。その後、米国へ行く事になり、学位をとって合計約4年半スタンフォード大学と米国国立衛生研究所(NIH)で働きました。ロタウイルスの仕事は現在も以前東京大学で客員研究員をしていた教室の教授だった牛島廣治先生(現 藍野大学健康保健センター教授、東京大学医学部名誉教授)と協同で続けており、平成20年10月には日本ウ

イルス学会で沖縄県の疫学的な内容で発表することもできました。下痢症の方がいたら大人でも、子供でもご相談下さい。臨床医としては、生活習慣病(高血圧、糖尿病、脂質異常症)を中心として、関連した循環器、消化器、呼吸器、感染症などの疾患も他の総合病院と連携して診療したいと思います。薬を出すだけでなく、食事や運動など生活習慣そのものや合併症が出た場合の他科との連携を内科で見て行きたいと思っています。糖尿病の方の食事療法や運動療法のための入院(糖尿病教育入院)なども希望されれば可能です。療養型の入院については、医療というより社会問題と思う事も多いのですが、寝たきりの方であっても人間として尊重した診療をしたいと思っています。一人の人間として本人、家族のために地域医療をしたいと思っています。

平成21年1月吉日

## 病を背負い、地味でも着実な一歩を ～患者・職員と共に～

看護部長 喜久川 美佐代



皆様、明けましておめでとうございます。新しい年を迎える度に私は、何かしら期待と快い緊張を覚えます。仕残した仕事は山のようにあって、それを暮れうちに片付けが追いつかなくても、新しい気持ちになれるから不思議です。お正月は家族でゆっくりと時間の流れる家で食事を楽しみながら、あれこれと考えてボーッと過ごしました。皆様は、どのようなお正月でしたでしょうか。今年一年が、看護部、そして皆様にとってよい年でありますように祈念いたします。去年は節目の年、病院創立36周年・病院機能評価V5受審と大きな記念すべき行事の多い年に6月から看護部長という責任あるポストに身を置きまもなく一年半になります。そんな矢継ぎ早に過ぎた年でしたが、看護部はワーク・ライフ・バランスでみんなが働きやすい労働環境を実現する。また、教育体制の充実でキャリアアップを図ることのできる条件づくりを方針とし、さらに看護部のために何をするとところかを明らかにすべく、その取り組みスタートさせた年でもありました。今年、この2つの方針を中心に、地域における在宅医療の充実を図るため訪問医療、看護を重点事業に進めていきたいと思っています。個人的なことになりますが、私は昨年より癌患者の役割を担うことになってしまいました。青天の霹靂です。私の人生設計のプランに癌患者が入っていなかったことは、周囲を巻き込み右往左往することしかりです。幸いにも職場環境に恵まれ多くの支援を頂き闘病生活を送れる幸運に心より感謝いたします。

入院患者は実に様々なことを考えているように思う。たぶん、健康なときの倍くらい。病床にいるからこそ、人は色々なことを考える時間を持てるのだと私は考えている。もしかすると、そうやって、普段考えないことを考えることによって、人は治癒していくものかもしれない。たしかなことはわかりませんが、病気に向き合う患者さんは不安と苦悩の中にいる。そうした立場を支えてくださる医療者に大変感謝すると同時に医療者の一挙手一足に一喜一憂する。中には感謝を表現せず、わがままで要求ばかりしてくる患者さんもいるかもしれませんが、どうか温かく受け止めてください。

「健康」をテーマに、自分の人生を振り返りマイナスであった人生の体験がプラスに転じる妙味を語りながら、「終わりよければすべてよし」と言える人生にしていきたいと思います。今年は地味に、しかし、着実に一步を踏み出していく年にしたいと思います。今年もよろしく願いいたします。

平成21年1月吉日

## 職員・家族の幸せを目指して

総務部長 宮城 孝光



Nobody loves the true the good and the beautiful.「真」「善」「美」を愛さぬ者はいないという宗教用語がある。特に「美」は人間の永遠の願いである。いつまでも若々しくピチピチとした皮膚を保ちたい、年を取りたくない、健康でいたい、それも“美”の願望でしょう。その他芸術的な“美”もあるでしょう。『健全なる精神(心の美しさ)は健全なる肉体(体の美しさ)に宿る』とも言われている。国の厚生労働省は国民の健康を守るため(医療費の抑制もあるが)に色んな政策を打ち出している。例えば、平成20年4月から、メタボリックシンドローム等を防ぐ為に特定健診、特定保健指導制度を導入し、各事業主に職員の健康管理を義務付けている。また栄養価基準や、タバコの被害基準、塩分の基準等を示し、国民の健康保持を図っている。翻って当院(事業主)のことを考えて見ることにしよう。事業主は院長である。どこの事業主も、職員の健康を願わない者はいない。院長もまた、そうだと思います。それは、また義務でもあります。職員が健康であれば、家族も幸せであるし、職場も健全であるし、明るく活気にみなぎるでしょう。ひいては、病院運営にも、好影響を与える。院長は、病院の理念の一つにも“健全なる人々の更なる健康増進のために”と謳ったのも、健康の大事さを強調したかったのだと思います。事業主(院長)は、職員の健康管理をするのが法的(労働基準法)に義務づけられている。例えば、年に一度の健康診断を受けさせること、また、メタボリックにさせない(特定健診、特定保健指導制度で事業主の義務化された)こと等である。だからこそ、アル中や、喫煙者には、厳しく、毅然たる態度で臨む(当院は敷地内禁煙の承認施設でもある)のは当然であるし、それは職員の健康を守り、職員の幸せを願うからである。また当院はTHP(健康増進認定施設)、労働者健康保持増進サービス機関認定施設でもあり、地域住民の健康を守る保健医療指導機関でもある。職員は、率先垂範して、健全な職場環境にして、自らの健康を大事にして、職場の健康管理者の義務も果たさせるべきである。近々、職員の幸せを目指して、喫煙者対策委員会の開催を予定しています。是非、職員全員の協力の基、一人の喫煙者もいなくなるまで、協力をお願いしたい。

The health is very important 「健康より大切なものはない」と言われていますが、人間は病気になって初めて健康の有り難さを知るのである。それでは遅い。日頃から、健康管理は継続的に行う必要がある。「健康」で「幸せ」であることは、自分一人のものではない。家族、親族、地域社会のためでもある。例えば、家族の誰か一人が病気になると、生活リズムがくるい、経済的負担が増え、家族の明る

い団らの雰囲気なくなり、場合によっては、親兄弟がバラバラになりかねない、また人間関係も希薄になり、「不幸」になってしまうことがある。不幸にならないよう、自らの健康は、自ら継続的に守ろう。目指そう!家族や親戚、職場の「幸せ」のために。そのためには、Do your effort!

平成21年1月吉日

## 永年勤続医療従事者表彰をいただいて

リハビリテーション科 渡久地 ルイス



平成20年11月27日(木)パシフィックホテル沖縄にて、永年勤続医療従事者表彰式が行われました。私も沖縄セントラル病院に20年間勤務してまいりまして、今回、表彰を頂きました。振り返れば、20年前ペルーから両親の故郷である沖縄に帰って来て、日本語もおぼつかず、英語でコミュニケーションを取りながらのスタートでした。リハビリ科勤務となり、患者様の意志を尊重し機能回復、ADLの向上、社会復帰の手助けに携わってまいりました。その中でスタッフや多くの患者様と交わることで、いろいろな事を学びました。また、AMDAの緊急医療支援の一員として「1998年 ニカラグア(大型ハリケーン・ミチ)の災害」、「2005年 グアテマラ(大型ハリケーン・スタンタ)の災害」、「2008年 ペルー沖地震災害」に参加することができました。これも沖縄セントラル病院の大仲院長先生をはじめ、病院スタッフ、患者様、多くの人々に支えられてきたおかげです。また、いろいろな地域活動にも参加させて頂き感謝しています。この20年を振り返り、沖縄セントラル病院で勤務したことで、色々な事を学び、多くの人々に交わり、支えられることで、私も成長することができ大変感謝しております。これからも日々精進し、沖縄セントラル病院の一員として勤めてまいりたいとおもいます。

平成21年1月吉日



## 永年勤続二十年の表彰を受けて

デイサービス 浦本 謙次郎



沖縄へ行こうと決め家族三人で埼玉より来沖し、「あしたから来なさい」と院長先生に言って頂き、沖縄での生活が始まりました。

沖縄セントラル病院で出会った院長先生を始め、素晴らしい先輩緒氏・同僚の助言により、二十年勤続を迎える事ができました事を心より感謝します。有難うございました。

この二十年いろんな事がありました。病院十五周年記念講演会やインドより、ポリオ患者のチャンドラさんがいらした。車椅子生活だったのにリハビリで杖歩行まで回復し帰国しての講演などがありました。又、沖縄綱引選手権大会、国際親善バレーボール大会への参加、ハーリー、エイサー隊の結成、病院もTHPフローゲンの開設、デイサービスが始まり、ガンマナイフの導入等と職員も増へ、大きくなってきました。

今後とも益々のご発展をお祈りするとともに我々も微力ではありますが、今後とも精一杯頑張っていきたいとおもいます。よろしく申し上げます。

平成21年1月吉日



社団法人 沖縄県医師会より  
永年勤続を讃え  
賞状と記念品を受章されました

# Album

那覇医師会立看護専門学校  
教務課長 大城昭枝講師による「看護展開方法」を学ぶ  
《於:多目的ホール》



真剣な眼差しで講話に  
聞き入る看護・介護職員

# Album

入院患者、デイサービス及び  
ご家族の皆様と共に敬老会を楽しむ  
《於:多目的ホール》

頑張るぞ～  
オーツ!



みんな上手で  
感心するさあ～



今日は私の  
晴れ舞台～♪



# Album

入院患者、デイサービスの皆様を対象に  
X'mas partyのひとつ  
《於:多目的ホール》



サンタの帽子は  
温かくて上等さ～

なんか  
緊張するわ！



みんな  
楽しんでるかな～♪





# Album

平成20年 沖縄セントラル病院 忘年会

《於:パシフィックホテル》

遠藤 実 作曲による  
“みちづれ”を  
枯れた喉で!!



JTAパイロットの  
有志によって  
花を添えて下さいました!  
楽しいひと時を  
有難う!

みなさ～ん、  
来年も一緒に  
頑張りましょう～



# Album

緊急時の患者搬送法について、職員へ院長自ら指導《2008-12.19》



病院職員総出で第4木曜日をエコ活動の日に！構内緑化運動の一コマ



# 病院の基本理念

- ひたすら病める人々のために
- 健全なる人々の更なる健康増進のために
- 集いし職員トモの生涯修養の館たらんことを



## 病院憲章

- (1) 私たちの病院は、地域の人々の健康と福祉を保証し、併せて健やかなる人々の病の予防と更なる健康増進のために努めることを目的とする。
- (2) 私たちの病院は、生命の尊重と人間愛を基本とし、常に医療水準の向上に努め、専門的・倫理的医療を提供するものとする。
- (3) 私たちの病院は、病める人々中心の医療の心構えを堅持し、地域の人々の満足を得られるように意欲ある活動をするものとする。
- (4) 私たちの病院は、何人も利用しやすく且つ便益を人々に公正に分ち合うサービスを志向するものとする。
- (5) 私たちの病院は、地域医療体系に参加し、各々のもてる機能の連携により、合理的で効率的な医療の成果を上げることに努めるものとする。
- (6) 私たち職員はたゆみない研鑽を積み、医療の錬磨と医道の高揚に努め、限りない愛情と責任を持って、地域の人々のために最善を尽すものとする。

## 看護部の理念

- (1) 地域の人々の、疾病の予防と健康増進の為に、検診から在宅看護まで一貫した看護活動をとおして地域に貢献します。
- (2) 患者の身体的、精神的、社会的ニーズにお応えし、きめ細かな看護、介護の実践を目指します。
- (3) 患者の人権を尊重し、質の高い看護、介護を提供する為に、看護研修や研究を継続します。

昭和48年以来、学校児童検診、保育所検診、予防接種等の院外活動並びに院内においてはTHPをはじめ、一般企業や公的機関への健診事業や、特殊検診等を通じて沖縄県の公衆衛生の普及向上に多大なる貢献をのこしたということでこの度、大仲病院長が“県知事表彰”を受章されました。



## 外 来 担 当 医 師

診療科名	午前/午後	月	火	水	木	金	土
脳外科	午前	大 仲	大 仲	外 間	大 仲	大 仲	大 仲
	午後	堀 川	堀 川	外 間	堀 川	堀 川	堀 川
脳外科 (ガンマナイフ)	午前	佐 村	佐 村	佐 村	佐 村	佐 村	佐 村 (第1・3土曜)
	午後	佐 村	佐 村	佐 村	佐 村	佐 村	
内 科	午前	石 田	石 田	ドカク・ニャン		加 藤	瀬 尾
	午後	堀川・井戸	堀川・井戸	石 田	堀 川	堀 川	堀 川
外 科	午前						
	午後				下 地		
循環器 内 科	午前			鈴 木			
	午後	鈴 木				鈴 木	
整形外科	午前	半 澤	琉大(整形)	半 澤	半 澤	半 澤	琉大(整形)
	午後	半 澤	半 澤	半 澤	半 澤	半 澤	半 澤
皮 膚 科	午前	琉大(皮膚科)			琉大(皮膚科)		
	午後						
眼 科	午前	宮 城		宮 城		宮 城	宮 城
	午後	宮 城		宮 城		宮 城	
歯 科	午前	當 間	當 間	當間・仲程	當間・仲程	當 間	當間・仲程
	午後	當間・仲程	當 間	當間・仲程		當間・仲程	
ドック検診		大仲・井戸	大仲・井戸	大仲・井戸	大仲・井戸	大仲・石田	大仲・石田

■受付時間/午前 8:30~12:30 午前 13:30~17:30

■診察時間/午前 9:00~13:00 午前 14:00~18:00

◎ガンマナイフセンター 直通:854-5516(内線:217)

◎居宅介護支援センター 直通:855-7200(内線:219)

◎デイサービスセンター (内線:505)

- 健康増進サービス機関 (厚生労働省認可)
- 付属リハビリテーションセンター

◎健康管理センター (内線:214・223)

- 人間ドック
- 脳ドック
- 一般検診
- 特殊検診(航空身体検査・高気圧業務検査)
- メディカルフィットネスセンター「フローゲン」 直通:854-5541(内線:502・504)